

第3回北九州市スポーツ推進計画策定検討会 会議録

開催日時	令和6年11月26日(火) <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> (午前)・午後 10時00分 開会 (午前)・午後 11時30分 閉会 </div>														
開催場所	北九州市役所3階特別会議室A														
出席委員 (◎:座長)	有延 忠剛 (北九州市障害者スポーツセンターアレアス所長) 池元 友樹 (北九州市スポーツ大使) 倉崎 信子 (九州栄養福祉大学教授) 花内 誠 (九州産業大学教授) 久澄 喜裕 (公益財団法人北九州市スポーツ協会事務局長) ◎船津 京太郎 (九州共立大学教授) 松崎 淳 (九州共立大学講師)														
欠席委員	梶山 幹子 (北九州市小学校体育連盟)														
事務局	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">都市ブランド創造局</td> <td>局長 井上</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">スポーツ部</td> <td>部長 濱田</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">スポーツ振興課</td> <td>課長 大江</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">スポーツ施設担当</td> <td>課長 川合</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 20px;">スポーツコミッション担当</td> <td>課長 三輪</td> </tr> <tr> <td style="padding-left: 40px;">企画係</td> <td>係長 末永</td> </tr> <tr> <td></td> <td>係員 梶谷</td> </tr> </table>	都市ブランド創造局	局長 井上	スポーツ部	部長 濱田	スポーツ振興課	課長 大江	スポーツ施設担当	課長 川合	スポーツコミッション担当	課長 三輪	企画係	係長 末永		係員 梶谷
都市ブランド創造局	局長 井上														
スポーツ部	部長 濱田														
スポーツ振興課	課長 大江														
スポーツ施設担当	課長 川合														
スポーツコミッション担当	課長 三輪														
企画係	係長 末永														
	係員 梶谷														
開催形態	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 / <input type="checkbox"/> 非公開														
議題	北九州市スポーツ推進計画最終案等に関する意見交換														
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第3回北九州市スポーツ推進計画策定検討会次第 ○ 北九州市スポーツ推進計画策定検討会委員名簿 ○ 北九州市スポーツ推進計画策定検討会配席表 ○ 資料1 北九州市スポーツ推進計画(素案)に対する市民意見提出手続きの実施結果 ○ 資料2 北九州市スポーツ推進計画(素案)に対する市民意見の概要および市の考え方 ○ 資料3 北九州市スポーツ推進計画の概要 ○ 資料4 北九州市スポーツ推進計画の最終案 														

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>■開会</p> <p>ここからの進行は船津座長に一任する。</p>
船津座長	<p>事務局より配布資料の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>■北九州市スポーツ推進計画の最終案等について</p> <p>【資料1、資料2、資料3、資料4に基づいて説明】</p>
船津座長	<p>今回の検討会では、計画全体に対する感想を含め、意見をいただきたい。まずは、意見をいただく前に、私から計画に対する、意見と感想を述べたい。</p> <p>まずは、本日の検討会まで、委員、事務局の多大なるご尽力に敬意を表したい。</p> <p>今回の計画であるが、国の第三期スポーツ基本計画を踏まえながら、北九州市ならではの地域性を生かした内容になっていると思う。</p> <p>特に、新ビジョンの「稼げるまち」「彩りあるまち」「安らぐまち」の3つの方針を柱にして、市民の日常生活とスポーツをより強く結びつけることを目指した点が大きな特徴ではないかと思う。</p> <p>北九州市は今まで多くのイベントを開催し、スポーツのする・みる・支える楽しさなどを共有してきたと思うが、今回の計画では、さらに一歩進んで、スポーツを通じて地域の魅力を発信する観光振興や、スポーツツーリズム、国際大会の誘致、プロスポーツチームとの連携強化などの地域経済を支える新たな事業モデルといったところは、注目に値するのではないかと思う。</p> <p>さらに、もう1つの特徴であるが、誰もがスポーツにアクセスできる環境づくり、障害者スポーツの推進、多世代・多様性を尊重した施策、共生を支えるコミュニティ形成の部分は、共生社会の実現を大変意識しているところではないかと思う。</p> <p>重要なことであるが、地域全体でこれらの計画を共有するためには、実行することが極めて重要と考えている。</p> <p>行政、企業、学校、地域団体、それから市民が、それぞれの立場で役割を果たしながら、計画を一体となって進めていく必要があると考える。</p> <p>私自身も、微力ながら、この計画の実現に向け、皆さんと努力をしたいと考えている。</p> <p>以上、私の今回の計画全体に対する意見である。</p> <p>ではご意見も含め、皆様のご感想等をお聞きしたいと思う。</p>
花内委員	<p>市民の意見を踏まえ、とても良い検討会になったと思う。個人的な感想として、やはり今回一番難しかったのは、稼げるまちという言葉に対して、具体的にそれが何を示すのかというところ。好循環のエンジンという形で今回は示されたが、する・みる・支えるの循環であったり、いわゆる大規模国際大会等誘致と、地元のスポーツとの関連性をかなり意識して、これから施策に盛り込んでいかなければならない。大規模大会を誘致しただけ</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
花内委員 (続)	<p>で終わらせず、それが具体的にまちや市民にどう還元され、反映されていくのか。特に、プロスポーツチームの役割が今後は、その鍵になっていくのではないかと考えているので、大規模大会と地元のプロスポーツチームをどう連携させるかなどが見えてくると、市民も、その具体的な好循環というものが頭の中で、イメージできるようになるのではないかと考えた。</p>
久澄委員	<p>スポーツ協会としては、この計画を実行していくような立場にあると思う。スポーツ協会の加盟団体や各競技団体と協力し、計画を具体化していくというのが我々の仕事になってくると思う。そして、問題点等が出てきた時に新たに検討してもらうような形で、少しずつ変えていくということになるのかなと思う。</p> <p>先週、WTTが行われ、その前はパルクールの国際大会や国際車いすバスケットボール大会が行われ、11月は様々な国際大会が開催された。私はそれに全て関わってきたが、やはり年々にぎわいがすごくなってきて、人が増えてきたことを実感している。やはりコロナ禍で人があまり動いていなかったが、パルクールでは、何万人もの人が入れ代わり立ち代わり、周りには色んなスポーツがあって、BMXや、スケートボードや、プロレスもあり、一緒にまちがにぎわっていると本当に実感した。また、そこにキッチンカーや、販売ブースなど、たくさん出てきて、これをもっと大きくしていけば、とてもにぎわいがあるまちづくりができるのではないかと実感した。</p> <p>スポーツ協会としては、その前段階の誘致等で協力し、日本協会からの情報や、こういうイベントをしたいけど北九州できないかとかという話も出てくるので、そういうところで市と協力していければと思う。</p>
松崎委員	<p>本日が第3回の検討会ということで、第1回、第2回の検討会での意見の取りまとめ、そして、パブリックコメントの意見に対する市の考え方の作成と、これまで尽力いただいた事務局に感謝申し上げる。</p> <p>今回、北九州市スポーツ推進計画の一番の壁と言えるのが、スポーツで「稼ぐ」という部分。ここがかなり重視されている計画で、パブリックコメントの130件の意見の中でどれぐらいの市民が稼げるまちということに対してコメントしているのかを数えると、5件ほどコメントが出ていた。</p> <p>そのコメント一つ一つを見ても、「稼げるまちに対して戦略として明記されているのは良いと思う」であったり、一方で「潤うまち、実業家のまちという表現にした方が良い」といった指摘もあったが、概ね稼げるまちという方向性に対しては、市民や関係者と、1つのビジョンを共有していることがパブリックコメントから読み取れた。</p> <p>そこで私のこの感想・意見としては、やはり今回、このスポーツ推進計画が固まる最終段階に来ているということで、今後おそらくこの計画をどのように実行していくのかということに加え、1つの稼げるまちというところをテーマにしているのであれば、実際にこのスポーツで稼げたのかというところが、来年やその次の年で、市民はかなり興味・関心を持つので</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
松崎委員 (続)	<p>はないかと思う。</p> <p>そこで実際に稼げたのかというところに加え、3つの方針を掲げたこの計画、そしてこの具体的な施策というところに応じて、実際この北九州市全体で、それぞれの計画での成功体験を市民、行政、民間企業が、ビジョンを共有していくということが、今後、計画を実施、そして評価していく上では、重要になるのかなと思った。</p> <p>実際、私は大学の1教員として活動しているが、このパブリックコメントの中でも、「若い方々がスポーツイベントにできる機会が欲しい」などの若い視点については、かなり意見が出されていたので、1人の大学人として、若い市民、若い学生を中心とした、北九州市でのスポーツ参画の機会というところに対して、役割をもって貢献していきたいと思っている。</p>
倉崎委員	<p>2024年1月に、新たに質の高いエビデンスをベースに、国の身体活動に関するガイドラインが策定され、子どもの身体活動や高齢者の運動について、「今より少しでも多く体を動かそう」「座位時間が長いことはメンタルヘルスに良くない」といったメッセージが示されている。また、筋力トレーニングによって筋肉から様々な体に良いホルモンが分泌されることがエビデンスとして示されており、運動をすることで体が元気になることが強調されている。しかし、運動習慣の割合や歩数が横ばい、減少傾向にあるという現状がある。このような状況を踏まえると行動変容を促すことが重要となる。特にスポーツに関心を持たない無関心期の人々をいかにしてスポーツに関わらせるかといったことが大事になる。スポーツはウェルビーイングと非常に相性が良いため、スポーツを通じて主観的な幸福感やウェルビーイングを高める必要がある。そのためには無関心期の人々を行動変容させ、様々な活動に参加してもらうことが求められる。さらにこれを実現するためのエンジンとなる「稼げるまち」が必要であり、それを他の施策と連動させることでさらなる活用が期待できるのではないだろうか。</p> <p>学校の体育が子供の体力向上にどのように寄与するかについて非常に関心がある。エビデンスによれば、小学校の高学年からは成人と同様の抑うつ傾向が現れるリスクがあるとされている。とくに青少年期において低強度の身体活動を増やし、座位行動を減らすことで、うつ病の発症リスクが低下すると言われている。一方で、働き盛りの世代は運動に参加する機会が少ない場合が多いが様々な施策を通じて、家族ぐるみで身体活動を増やす取り組みを行えば、生活に潤いをもたらし、さらにウェルビーイングの向上にも繋がるのではないかと考える。</p>
池元委員	<p>今回、検討会委員を務め、皆様の意見や、市民の意見を聞かせてもらい、改めて、我々プロスポーツクラブが期待されている感覚や、求められているものを再確認した。</p> <p>もちろんプロスポーツクラブというのは、結果が求められる世界であるが、やはり、結果だけではなく、与えられることがたくさんあると思っており、その中で、子供たち、高齢者、学生など様々な方たちに、元気や勇</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
池元委員 (続)	<p>気を与えるような、そんなことができる機会をふやしていけたらと思う。</p> <p>そのような中、計画を立てていく上で、結果というのは必要になってくるが、良くない結果が出たとしても、長期的に見ていく必要があると思う。今回出てきた色々な意見をしっかりと次につなげていけるよう、今後も計画を進めていけたらと思う。</p> <p>皆様の意見を、我々クラブにも持ち帰り、自分たちで、もっと大きな、しっかりとした形にしていき、しっかりと発信していけるように、進めていきたい。</p>
有延委員	<p>私は障害者スポーツという立場での参画になったが、今回のスポーツ推進計画策定の中で、やはり都市経営においても、重要な「稼ぐ」というところに焦点が当たっており、どちらかというところと障害者のスポーツというのは、お金がかかる方で、稼げないところがあるかと思う。今後、様々な具体的な施策が進んでいくかと思うのだが、そういった中で、障害者スポーツという部分について、忘れていただきたくないという思いも込め、話をさせていただく。</p> <p>ご存じの方もいるかと思うが、障害者スポーツの世界で非常に有名な言葉がある。大分の国際車椅子マラソンで10連覇を達成したハインツ・フライの言葉で、「障害のない人は、スポーツをした方が良い。しかし、障害のある人はスポーツをしなければならない。」という言葉がある。障害のある人にとって、スポーツというものがいかに健常者以上に有用なものであるかということを示す象徴的な言葉である。どうしても障害があると運動不足になりがち。人生の途中で障害を負った人が自死を考えるほど生きる希望を失ったりする中で、スポーツが目標、挑戦、そして生きがいとなる。障害があるとどうしても外出の機会がおのずと減少する。そういった中でスポーツが社会参加、或いはその仲間づくりの機会を作る。そういう意味で、障害者スポーツは、身体的、精神的、社会的に、障害のある方にとって非常に大きな意味を持つ。加えて言うと、障害者にやさしいということは子供、高齢者にもやさしい、みんなにやさしいということになる。1億総スポーツという言葉があったが、その中に、重度の障害のある方も含まれていることも改めて、ご理解いただければと思うところである。</p> <p>それともう1点であるが、スポーツを通じた共生というところで、障害者スポーツセンターは、障害の有無によらず、誰もが使える施設である。割合で言うと、全体の7割が実は健常者である。3割が障害のある方ということになる。共生をテーマに、運営を続けて今13年目ということであり、これがやはり難しいテーマというふうに私自身は考えている。とはいえ12年経過する中で、やはりその同じ場所に障害のある人、ない人がいる。或いは近くにいる。そういうことが、意識の部分での、ただその場と一緒にいるということだけではなくて意識の部分でも共生しているということ、少しずつ進めていってくれていると思う。当然近くにいることで或いは同じ場所にいることで、衝突、或いは摩擦もある。だが、そういったことを少しずつ積み上げていくことによって、共生が少しずつ進んでいくと思っている。どれだけ他人事ではないこととして考えることができ</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
有延委員 (続)	<p>るかということが、共生していく中で非常に大きな要素ということになる。</p> <p>最後に、今後具体的な施策が進んでいくかと思うが、その中でお願いがある。市のスポーツ施設で、障害のある人の理解、受け入れがさらに進んでいくように、職員のパラスポーツ指導員の資格取得をぜひ進めていただきたいと思う。</p>
船津座長	<p>それぞれの立場で、意見、感想をいただいたが、感想を踏まえ、追加発言があれば、願います。</p>
有延委員	<p>市民意見の提出者が99名であるが、何歳から何歳までかは分かるのか、また、平均年齢が分かれば教えてほしい。</p>
事務局	<p>年齢の把握はできないが、学生からたくさん意見をもらう機会があり、87件の意見を提出いただいた。</p> <p>そういう意味では、今回機会に恵まれ、若者の意見をたくさん集めることができ、非常に新鮮な意見が多かった。</p>
船津座長	<p>皆様の意見を伺うと、稼げるまちについて、非常にインパクトがあったところであるが、本当に稼げるのかといった評価も必要ではないかと思う。</p> <p>それから、多世代、多様性、共生といったところに非常に特徴があるのではないかと思う。手前みそであるが、九州共立大学や九州女子短期大学でも、次年度以降から、障害者スポーツ指導員の導入も計画中である。大学においても、共生社会の実現を目指して、スポーツの世界でも動いているというような状況であり、微力ながら協力したいと思う。</p> <p>そして、このような機会に立ち会うことができ、委員を代表して、私から事務局に感謝申し上げます。</p> <p>今後のスケジュールとしては、本検討会の報告や12月の常任委員会や審議会の報告を踏まえ、必要に応じた計画最終案の修正を行い、来年3月に計画を策定予定となっている。</p>
事務局	<p>私は平成8年から平成11年まで、教育委員会体育課という部署に所属しており、当時はまだ市長部局にスポーツ部門が無かった。</p> <p>今は課長職の職員が7名、係長職の職員が11名、職員が17名おり、会計年度任用職員なども含めると40名程度の職員がスポーツ行政に携わっているが、当時は課長職の職員が1名で、係長が2名、職員が6名で、合計9名しかいなかった。</p> <p>今月、パークールや卓球などの様々なイベントがあったが、昔はこういったものも、あまりやっていなかったように思う。スポーツを見る目が変わってきたというか、世間のスポーツの位置付けが、昔と比べて良い方向にとても飛躍してきたのではないかなと思う。</p> <p>そのような中、市の全体の流れの中で「稼ぐ」を中心に据えた計画とし、皆さんにも、ご意見やご賛同をいただいた。</p>

○ 会議に欠席であった梶山委員については、別途、意見・感想の聴き取りを行ったもの。

梶山委員からの意見・感想

小学校体育研究会は、子どもたちが生涯にわたって豊かなスポーツライフの実現に向けて授業研究を行っており、スポーツ推進計画の実現に向けて学校が担っている役割は大きいものと考えている。

今年度、夏季休業期間中に毎年教員を対象に行っている体育科実技研修会には約300人の教員が参加し、また、月1回、18時半から20時まで行われている体育科の理論研修や実技研修会にも熱心に参加される教員がいる。学校体育で、運動好きの子どもを増やし、健康の保持増進と体力の向上を図っていかねばならないと考えている。そして、自己の適正に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方で、推進計画の基で活躍できる子どもたちを育てていきたいと思う。

福岡県女子体育連盟という組織にも所属しているが、年に1回ダンス発表会をウエルとばたで行っており、幼稚園・小・中・高校生・社会人・高齢者90代の方も元気に参加されている。審議会委員の酒井副会長が行っている女性体操教室にも80代・90代の高齢者が元気に通ってくるという話を聞いている。スポーツを通して、活気のある北九州を目指していければと思う。

「稼げるまち」は北九州市長が掲げている重点戦略である。一方で、学校現場は、今年度、学校予算が1割カットされて、老朽化も進んでいる中で、やりくりが大変である。スポーツ施設も立派な体育館・施設ができればいいと思うところがたくさんある。予約も体育館に直接行かなければ利用できないという不便さもある。市民の声も施設に関する意見が多かったように思う。

しかし、財源がなければ何もできないので、誘致活動を行い、地域の活性化につなげ、好循環が生まれ出されていけば良いと思う。

ソフトバンクの試合を増やしてほしいという意見が上がっていたが、広島カープの試合を行ってもらえると、北九州市民球場の立地的にもカープファンがどっと押し寄せるのではないかと思う。

最後に、卓球WTTファイナルズ福岡の誘致活動に北九州市の校長先生が関わっていると聞いている。カブスの今永昇太投手のお兄さんも市の教員で、体育科研究会に属している。北九州市はミニバスケットボールも盛んで、元校長先生が若い頃から連盟に関わって築き上げてきたもの。ラグビーやサッカーも小学校の教員が関わっている。今後、教員の人脈等も活用できたらいいと思う。

様々なところからのアプローチで、北九州市の活性化が図られることを願っている。